

・・・雨でも休まず、228回、229回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、1月 5日（第一土曜日）：小原本陣の森、若柳嵐山の森

　　昨年の無事を感謝、本年の実りある活動を祈願する。

　　若柳の森で正月を祝う、オセチの残りを持っておいで。

定例活動2、1月 20日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動

　　午前：鈴木様に新年の挨拶、神事の軽作業。

　　午後：地域との交流を深めるため「小原町内会」合同新年会。

　　於・五本松。参加費4000円、女性・学生3000円。

・初参加：9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ

・服装：汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元

・持参品：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、

・注意：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

共感と信頼と・・・、NPO活動の真髓は何か。

活動10年を経過して最近、しきりにNPO活動のキーワードは何かを考えています。使命感・情熱・・・、公共性・先駆性・公開性・社会性・継続性・公平性・・・。

社会制度の矛盾の気付いた人が、これを是正すべきだと非常な使命感と情熱をもって、あらゆる技術を屈指し、これを解決しようと取り組みます。然し、何かが足りなくて解散に追い込まれます。何が足りないか。過日、学生たちが「何故、ボランティア活動をするか」を議論していました。その中に“共感・信頼”と言う発言がありました。“共感・信頼”・・・、この言葉に感ずる所があり、突き詰めて考えています。“自分も参加したいが諸般の事情で参加できない。参加できないが、せめて活動資金支援だけでもしよう”。そう思われるような活動とは何でしょうか。

共感：活動内容だけでなく、その団体の雰囲気と言うのはどうでしょうか。

いささか抽象的ですが雰囲気とは、その活動を進める団体に暖かいものを感ずる。

即ち、情感に訴える優しさとか、楽しさとか、思いやりとか・・・。

一般に言う“ソフト領域：情感”に属する諸条件を満たす事ではないでしょうか。

信頼：前記の公開性（公平性）・先駆性・社会性・継続性、いわゆる“ハード領域：技術”に属する活動であり、活動自体が“納得・信頼できる”と言う技術的な側面のように感じます。

「信頼に裏付けられる共感」・・・、これが「NPO活動の真髓」と言うのはどうでしょうか。

(石村記)

小原本陣の森・定例・活動報告：12月 1日（第一土曜日）

Forest Nova、望星高校を含め14人参加、冷え込む快晴。

相模原市と話が進んでいる「明王峠～大久保沢～小原の郷：下山路」開設ルート調査班（川田・加藤・石村）、林道行き止まりから共有林尾根を登る作業路・径路建設班（斎藤・佐々木さん他11名）と2班を編成して取り組む。

1、ルート開設班：共有林入り口から尾根を辿って遮二無二、頂上孫山に向けてルート開設テープをマーキングしながら登る。頂上到着には2時間経過して、12時に到着。

頂上は、蜜植の薄暗い杉植林地。眺望もない何もない放置林の見本。昼食後、マーキングテープを辿って下山。

2、作業路開設班：斎藤・佐々木会員を指導員にして、沢に架けた共有林入り口・丸木橋を渡って、そこから作業開始。先ず、荒れまくったやや平らな軟斜面の藪払い。

もう、本当に荒れまくっていると言う状態で、腐った倒木はある、蔓は巻きつく、足場は悪い。が、学生たちは元気溌剌。午前の作業で入り口付近の荒地は平坦に整地された。

・ 午後、斜面・作業路開設の設営に取り付く。そこで、斎藤会員の指導は・・・、「工事は出来るだけ現地材料の倒木や石を使うこと。土留めのための材料を設置したら、木の枝を敷いて土を入れること。土を直接、入れたら雨が降れば流されてしまう。ここに草が生えれば、木が腐っても土の流失は防がれ、路が維持される」

冬の森は、早く陽が落ちる。作業の3時過ぎには手元も暗くなる。気温も急激に下がる。3時15分、「作業止め～、終了！」の声をかけるにも、「もう、ちょっとだけ～」と夢中になって作業を継続している。結局、山を下ったのは、足元も薄暗くなった4時半頃。

* 生態系調査：11月30日（金）

当会は荒廃の進む森林の保全・再生に取り組んでいるが、その名の下に森林破壊に繋がることをしてはいないか。これをチェックする機能として、FSC（国際認証：森林管理協議会）もSGEC（国内認証：緑の循環会議）もモニタリング（生態系変化調査）を求めていた。そこで、小原本陣の森整備に取り組むに当たって、整備前の植生調査に取り組むことをした。この日まで2回、大久保沢沿いと新たに取り組む共有林経路沿いに調査してきた。30日のこの日は、西斜面（孫山・本陣尾根）のとっつき箇所から内野指導員・川田・石村で急斜面を調査しながら搔き登ることとした。

取つ付きの針葉樹林はまだしも、尾根の尾部分からのブッシュ急斜面は正に「搔き登る」で、調査をしながらの登坂はイササガの難業、茨はある倒木はある、崩壊地はあるで約1時間のアルバイトは、息は切れる喉は渴く汗が噴出す。尾根鞍部に出ると意外や意外、協力協約の下草刈り地は明るい針葉樹林であった。孫山の頭、孫山頂上、経路敷設予定の共有林尾根を下って調査は完了。冬山ながら凡そ、550種の植物のあることを確認した。東尾根（名付けて、美女谷尾根）は未だ、手を付けていない。

* 相模原市・プレスリリース：小原宿活性化計画 孫山現地踏査を実施

12月8日（第二土曜日）相模原市と上記を協働踏査した。行政が報道機関に発表する“プレスリリース”と言うのを聞いたことがあるが、その実物を入手したので以下に転載する。

1、趣旨 小原宿活性化計画の推進の為に、小原地区の住民を中心に設立された小原宿活性化会議では、今年から6つのリーディングプロジェクトに取り組んでいます。

その1つである「孫山周辺景観整備プロジェクト」は、小原地区の回遊の魅力の向上を目指し、現在、花の名所づくりや小原本陣の北側の孫山（標高547.2m）への散策ルートを検討するため、プロジェクトメンバーによる現地踏査が行われました。

2、参加者 地区住民、相模湖を中心に森林整備などの活動を行うNPO法人緑のダムメンバー、市職員 計10名

3、日時等 平成19年12月8日（土）午前10時から午後4時まで

4、概要 小原の郷から孫山（標高547.2m）、子孫山の頭（標高542.8m）を経由し、小原の郷に戻る約3kmのルートを踏査しました。

小原の郷から暫らくは緩やかな林道を辿りましたが、その後は現在NPO法人緑のダム北相模が森林整備を行っている植林帯の急斜面を歩行し、出発から凡そ1時間30分で孫山の山頂に到着しました。山頂はスギの植林により眺望は開けておらず、景観伐採が課題であることを確認しました。

山頂からは既設のハイキングルートにより子孫山の頭に向かい、昼食・休憩の後、木立の間から右手に相模湖を、左手に小仏城山や景信山を眺めながら小原方面に下山しました。小原方面への下山は途中まで既設のハイキングルートを利用しますが、相模湖駅方面との分岐点からは、藪の中を進まねば成らない状態にあり、ルート整備の必要性を確認しました。

踏査の結果、歩きやすいルートの選定と、全般的な眺望の悪いために景観伐採が必要のある事を課題にして確認し、今後のプロジェクトの中で検討していくこととなりました。

また、相模湖から小幡地区や千木良地区まで一望できる眺望スポットや江戸時代の明和年間（約230年前）に建立された石づくりの祠（ホコラ）を発見し、今後の活用を検討する事となりました。

**若柳嵐山の森・定例・活動報告：11月18日（第三日曜日） 報告 伊藤 小夜子
「癒しの森に感謝！の一年」**

冬の冷たいけど澄んだ空気、朝の森に響く鳥のさえずり、今年最後の活動日も快晴！。新しい団体「生命の森宣言東京：13名」、県募集2名、日大森友3名、学生連合Forest Nova 9名、日大・森林資源科学科桜井教室34名、一般16名、計77名。

・森の体験学校には「生命の森宣言グループ」が初参加。森に歩く姿は整然と頼もしく、森に対



相模原市・職員に地形を説明する

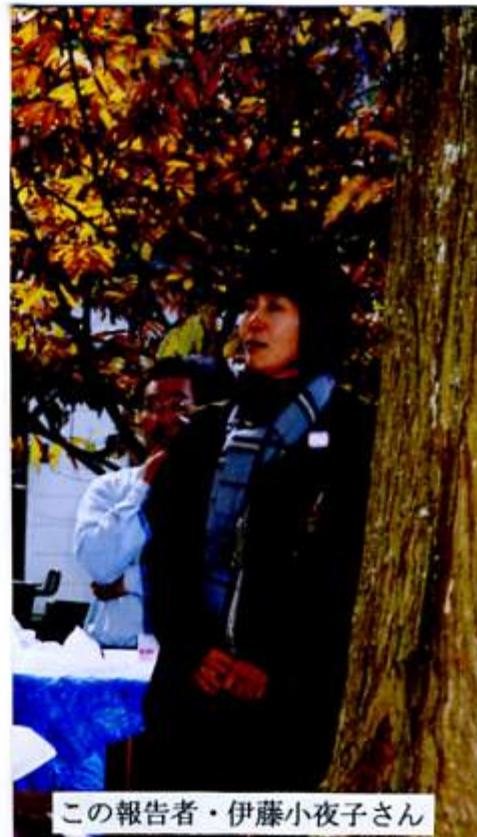
する真剣な想いが感じられる。ご案内の斎藤・林コンビも阿吽の呼吸。

“望星の森”では「協賛企業から頂いた急斜面に根を張る板苗は、育ちが良く葉も大きく落葉は良い肥料になります。50年100年計画の森を考えて将来、どのように活用するかによって管理方式も変わります。従って、シッカリしたVISIONが求められます」と専門家・林会員の説明だ。

傍に立つソバ百合がドライフラワー状態で立ち、一振りすると種子が零のようにハラハラと零れて行く。その形状はニンニクスライスにそっくり。何んだか自然の神秘を感じさせる一瞬。

森は四季折々、毎年・毎月・毎日、その顔を変えて行く。何んでこんなに人の心・体を癒してくれるんだろう。落葉の絨毯を踏みながら“もっと、森に足を運ぼう”と改めて森に感謝!。
・花畠班は、少数精銳!、腐葉土を作るために落ち葉を集めに励む。純白とうっすらピンクの薔薇が、“ホッ”と心を慰めてくれる。

- ・森の入り口整備班は、先月刈った林床を片付ける作業に川田・吉田・Forest Nova学生等。良い空気の中での作業は、寒さも忘れる。
- ・桜井教室の学生たちは、班に分かれて直向に真剣に造林実習に励む。



この報告者・伊藤小夜子さん

お昼の楽しみは、強力助っ人吉池さんと石村ママによる「茸とハルサメの中華スープ、味醂に漬けた柚子が一味違うフロフキ大根」。舌鼓を打つ。

今年最後の終礼では先月、山主さんから頂いた柚子をジャムにして、暖かい柚子ジュースで乾杯。佐々木さん提案の、「焼きたてホヤホヤ・焼き芋」をお土産に身も心も温かくなつて帰路に付いた。

* 初参加報告

生命の森宣言東京 報告：平石 成男



間伐・伐採指導をする斎藤指導員

「生命の森宣言東京」は、13名で初参加しました。新宿から1時間で東京近郊に、これほど豊かな自然があるとは驚きです。

午前中は、森を散策しながら植生、生態系、森林の保水性、治山作業、望星高校生の森を見学し、午後は、38年杉の間伐・伐採実習では、水を含む木の重さに驚かされ、木を伐る事が生あるものの生命を絶つ少し後ろめたい思いもしました。然し、こうして森を保護する意味

を理解しました。

成り行きに任せれば計算上は、あと数百年で森林が地球上から消滅すると言われていますが、森林はわれわれ人間と同じ生命を持っており、森の自然によって人間は生かされている共存共栄の関係にあります。自然を守らずして人類だけが栄える事は不可能です。更に深刻な問題、地球温暖化がそれを物語っています。住んでいるところは小さくとも環境は、グローバルに考えなければ解決にならないことを感じました。また、あらためて自然の素晴らしさや大切さを実感し、今出来る事から環境問題に取り組んでいかねばならない。自然に触れる事で生物と一体の生命観を感じ、環境問題の解決も自然との繋がりで広めて行かねばならない事を実感しました。本研修がその機会を与えてくれた事を心から感謝します。

* 造林実習：緑のダム北相模の活動に参加して

日大・森林資源科学科 山口 春菜

今回参加して新たな発見が幾つかありました。

私は相模湖町に住んでいるのですが、地元で森林ボランティアの人たちが森つくりをしているのを知りませんでした。私は去年から、森林を学ぶために高尾山で森つくりに参加していますが、直ぐそばにこのような人たちがいる事を知って衝撃でした。



真剣に直向に・・日大・森林資源科学科・学生

今回の作業は夏休みに行った計測学実習と同じだったのでスムースに出来ました。だが、群馬県の平地林・水上の森とは違い、ここは急傾斜で足元が定まらず、プロットを作るのが大変でした。そして、下草刈の鎌が上手く使えず手間取ってしまい、もう少し上手に使えるようにならねばと改めて思いました。また、植生が繁茂し移動や距離測定にも手こずりました。胸高直径測定は全て測ることはできましたが、樹高測定は半分くらいの出来でした。毎木調査は樹種が分からないと話にならず、もっと知識を増やさねばならぬと反省しました。冬の森

では、木に葉がなく落ちている葉や樹皮から、樹種を判別できるようにならなければなりません。

今回の実習を終えて、地元の山や自然環境についてもっと知らなければと思いました。何より、地元の山でFSCの認証をもらえるような活動をしているとは！。しかも、ボランティア活動で認証を得たとは驚きです。

また近年、森林管理者は中高年が多く、担い手の育成が問題になっていますが、緑のダム北相模では、Forest Nova と言う学生団体が熱心に活動しています。そして他大学生同士が森林活動を通じて輪が広がって行くのは素敵な事と思います。

私も出来れば関わって、この活動に参加したいと思っています。今回はとても良い体験になりました。ありがとうございました。

名栗の森～泊りがけの遠征訓練～

報告：学生連合 Forest Nova 所属 加藤 浩晃

12月22、23日にかけて、僕らForest Novaは埼玉県の名栗の森へ行ってきました。

そこでは、名栗さわらび隊の瀧澤さんと井上さんから伐木の仕方を教えていただきました。具体的には「よりプロに近いNPOの伐木」ということで、チルホールドを使わず、純粋に技術によって倒したい方向に木を倒す練習をさせていただきました。

今まで嵐山でも何度か伐木したことはありました。その程度ではまだまだ実力不足、経験不足であることを実感しました。

22日の夜は市議会議員でいらっしゃる柏木さんのお宅に泊めさせていただきました。そこでは、木を倒すという行為に対して今まで聞いたことのなかったような考え方を瀧澤さんから教えていただけたことで、新たな価値観に触れることができたのではないかと思っています。



作業の様子



瀧澤さんのお話を聞く女性陣

エココン～全国大学生環境活動コンテスト～

報告：学生連合 Forest Nova 所属 加藤 浩晃

12月26、27日の二日間、参宮橋駅から程近いオリンピック記念青少年総合センターにて行われた、「全国大学生環境活動コンテスト」というイベントに出場します。これは文字通り、日本全国で活動している大学生が集まり自分たちの環境活動を発表するコンテストです。

僕らはここで、今までの活動を自分たちなりに洗練して発表します。

今回はエココンに出場することによってForest Novaを全国の学生に知ってもらう、また、一緒に活動してくれる仲間を探すことが目的ですが、最優秀賞をとりにいく構えで準備に取り組んでいます。

この結果は、後日報告させていただきます。

こうして自分たちの活動を人に発表できるようになったのも、緑のダムの皆様に協力していただけたからだと思います。一年間有難うございました。

2008年も、どうぞ宜しくお願いします。



* 神奈川県の水源政策から・・・改めて考える NPO・企業・行政の役割

岡崎前知事の時から、この政策に関わっている。政策を遂行する上での税制の仕組みや行政の技術的な進め方については、事業遂行力は凄いと思うが、“持続性ある森林経営”と言う意味での「環境と経済の矛盾」を解決する途が見えない。

そうこうしていると過日、さる非公式な会議の席で県職員から「そもそも、この制度に経済的な視点は入れられていない」と言うのを聞いた。改めて、「行政・公共事業のあり方」を考え、右の図を参考にしている。

この図の説明で行政が直接・経済活動を出来ないことが良くない事が分かるしNPO(市民)・企業・行政の社会との関わり、公共的機能・役割が明確になってくる。

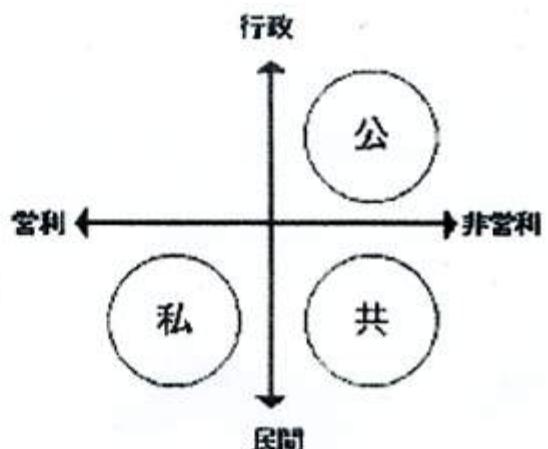
近年、急激に温暖化問題の解決が、地球規模で求められるようになっている。企業のCSR(社会的責任)と言う形で森林保全に取り組む活動が増えている。右図から推して、もし、この三者の環境・経済・社会への取り組みを効果的に組み合わせる事が出来れば、行政が直接、経済に関われない問題解決の糸口になるのではないか。

当会は、「森林環境と経済が矛盾しない社会づくり」を目指している。この形を具現化するために当会が行政と企業の間に立って、NPO・企業・行政の三者が課題を共有できる事業を遂行すれば、相矛盾する課題も解決できるに違いない。活動開始10年を経過して、第二期10年計画の目標をどうするか考えている現在、(全てのNPO活動に通用しないかも知れないが)、「NPO+企業+行政」で構成する新しい経済システムの可能性を考えている。自由で柔軟な発想と行動得意とする当会として行政や企業のしている事をトヤカク言う事なしに、新しい経済システムつくりを小さな仕組みからでも始めたい。企業が社会貢献を形にするために、「社会貢献室」と言うのがあるが最近、ある大手企業から活動参加の打診があり、この辺りのこととも話し合いたい。

森林NPOとして身近な事柄として考えたのが、持続的森林経営の方策：「森林所有者・素材生産者・森林NPO・製材業者・工務店・販売者」による事業者を巻き込んだコラボレーション。ここに、2期10年の活動目標においてみようと思う。この辺りが営利を求めるNPOの役割かと思う。もし、解決できれば神奈川県の水源政策の中で、環境と経済の矛盾が埋められないで困っている行政システムのもどかしさ・フラストレーションも解消する。

〔石村記〕

■3つのセクターの関係



資料：市民と行政・企業の役割 竹内健一

第二期10年計画の初夢：川崎のど真ん中に、水源の森入り口

川崎市のど真ん中…ここに森をつくる！

本気で夢を見る・・・

5年前、川崎市のど真ん中・幸区のJR貨物跡地で花壇の手入れをしている「さいわい町づくり研究会」と言う市民団体と知り合った。代表は、川崎市議経験のある千葉美佐子さんと言ってなかなかの人物である。環境問題が共通の話題で千葉代表は「JR貨物のこの跡地に緑化と防災の森を夢見ている」と言った。何か一緒に出来ないかと言うことで、川崎市の水道の取り入れ口・相模湖ダム直下ある沼本ダムとここを繋ぐ“水源の森・入り口”と言うようなことを考えようと言うことになった。

2004年春、千葉代表がこのJR貨物跡地で「川崎・ネイチャーフェスティバル」と言うのを計画していると知って、その年の4月の第一土曜日に見に行ったら、思いがけない大規模で入場者は3000人ほどだと言った。第2回目から参加して4回・4年目を迎える今年は、8000人ばかりの入場者規模になっており特に、上流と下流を結ぶ計画は、「山梨県・神奈川県、相模原市(水源の都市)・川崎市(水の消費都市)、JR貨物、毎日新聞社」が一堂に集まって後援に入ってくれると言う形に発展した。

そこで初夢の話なのだが、千葉代表との約束をそろそろ、形にしたいと思う状況に来た。ので、以下のようなことを夢見ている。

“このJR貨物跡地は南北に約3.5km、東西に約50~250mあり、周囲は11の町内会が囲んでいる。幸区の人口は約15万人。全部とは言わないが、水源地相模原と繋ぐ“水源の森入り口”はどうか。大都会のど真ん中の一等地に森を作れるかどうか。また、夢想者に石村が！…と言われるかも知れない。だが、温暖化対策、防災などが急務であるこの時代、夢で終わらせてはならない課題と思う。この夢は5年間、見続けてきた。夢は本気でいれば正夢に変わる。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称：特定非営利活動法人緑のダム北相模：若柳嵐山の森、小原本陣の森
事 務 局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9
発行人：NPO法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636
H P：<http://midorinodam.jp>
E-mail：info@midorinodam.jp

協 働 団 体：神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター)、セブン-イレブンみどりの基金、(財)オイスカ
ご支援の団体：WWF・japan、イオン財団、神奈川建具協同組合、東急コミュニティ。